

産業情報いわて

VOL. 128

月刊 2013年3月号

【支援企業紹介】



川辺産業株式会社

「変化」への対応も (P2)

高い技術力があればこそ



平成25年度 (P4)
いわてものづくりアカデミーのご案内

「第47回スーパーマーケット・
トレードショー2013」出展報告 (P5)

北東北3県域アパレル企業 (P5)
ビジネスマッチングフォーラム開催しました

第16回いわて希望ファンド、 (P6)
第13回いわて農商工連携ファンド
公募予定

第40回記念岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展) (P8)
開催しました

第42回岩手県の物産と観光展(日本橋高島屋展) (P8)
開催のお知らせ

住所変更のお知らせ (P8)



「変化」への対応も

高い技術力があればこそ

ものづくり王国日本の、技術の結晶でもある金型産業。革新めざましく日々進化するこの業界で生き残るには、技術力はもちろん変化を読み柔軟に対応していく姿勢も必要だ。花巻市の川辺産業株式会社はカメラ部品から自動車分野へと得意分野を広げ、技術革新めまぐるしい自動車業界においてメーカーの厳しい求めに応え続けてきた。

金型の新技术をいち早く導入、精密プレス部品製造に特化

自動車や各種電気製品を構成する機械部品を作る金型プレスは、モノづくりの肝ともいえる工業分野。種類や用途、大きさも千差万別な部品ニーズに応じていくため企業には高い専門性が求められるが、花巻市に本社と工場を置く川辺産業株式会社は自動車やカメラなどの精密プレス品の分野に注力、取引先から高い評価を受けている。

同社は昭和49年、川辺助之社長が個人事業として立ち上げた。周囲では県内にある大手メカトロニクスメーカーで技術を磨いて独立する事業者が多い中、川辺社長は東京で金型技術を習得して帰郷したと

いう経歴を持つ。「そのため当時の岩手には少なかった『順送型』という金型技術を導入したのです」と、部長の菅原正光さんは説明する。複数の工程を単一の型内に配置して加工完了品を作る順送型は、1台のプレス機に1型を取り付けて作業する「単発型」に比べスピード、コストともに飛躍的にアップする。その先取性を評価され、同社は大手光学機器メーカーとの取引引きで実績を積み上げていったのである。

昭和57年には現在の花巻機械金属工業団地へ新社屋と工場を建設、同60年には工場の増築も行った。取引先も光学メーカーから拡大し、現在は自動車部品の中でも高い技術と品質管理が求められる自動車センサー部品などを中心に製造している。

カメラ部品から自動車部品へメーカーのニーズを受けて変化

同社が得意とするのは、薄物と呼ばれる厚さ0.1mm程度までの金属の曲げ加工。この技術を使用した一眼レフカメラのワッシャー（ジョイント金具）等は今も注文がある。しかしデジタルカメラの登場で、需要は激変したと菅原部長は振り返る。

「一番は技術の進歩に伴う部品点数の減少。海外へ製造拠点も移され、当社からも何十個もの金型をタイへ送りました。こうした技術の流出もあって、受注は15分の1程度まで減少してしまいました」。

転機は試練の最中に訪れた。プレス加工業者を探していた青森県の企業と出会い、自動車用センサー部品を手がけることになったのである。求められたのは、エンジン内部に送りこむ空気量を計測するエアフロセンサー。車の燃費制御には欠かせない重要部品で

あり、より加工の精密さが求められた。

もちろん同社には、これまでカメラ部品で培ってきた高い技術力があつた。しかし自動車部品は、品質管理が特に厳しいことで知られている。同社は材料仕入れから出荷に至るまでの品質保証体制を確立、メーカーの監査にも対応した。その仕事への評価は、受注生産量の増加として現れた。

現在、自動車業界はガソリン車からハイブリッド、さらに電気自動車へとシフトしつつある。これによりおよそ3万個といわれる自動車部品が電気自動車では半分以下に減るとされる。昨年同社が地元企業や研究機関と取り組む、自動車用複雑三次元形状プレス部品開発事業は、そうした“変化”に対応するものだ。

「どんなに業界が変化しても、プレス部品自体のニーズはなくなる。問題はその分野にいかに関わり込んでいくか」と菅原部長。次への一手は、もう打たれている。

- ① センサ部品製造に伴い導入したデジタル電動サーボプレス。モーション・ストロークの条件設定ができ生産もアップ。
- ② 品質第一主義が同社のモットー。各所にベテラン社員の目が光っている。
- ③ プレス加工機は31台設置されている。
- ④ 3次元CADシステムによる金型設計。
- ⑤ ミクロン単位での金型調整が続く。
- ⑥ 完成した部品は超音波洗浄機で洗浄される。他社の洗浄依頼にも対応している。
- ⑦ 加工機が並ぶ本社内。より効率のいい加工の段取りを設定、機械を操作する。
- ⑧ 出荷検査は最も重要な工程のひとつ。品質管理部門が重要な仕事を果たす。
- ⑨ プレス加工を行うプレスステーション。
- ⑩ 本社工場では金型設計、組み付け等を。



代表取締役社長
川辺 助之

新しい事業にも積極的にチャレンジしていく

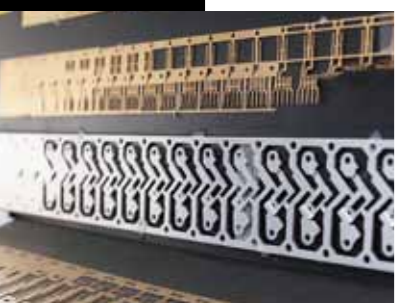
一眼レフカメラからデジカメそして自動車と、新しい事業に取り組んできましたが、大事なのは「品質」「コスト」の向上。当社では産業振興センターの設備貸与制度を利用して新事業参入のたびに加工機械を導入し、技術力を高めてきました。



菅原 正光

会社名 川辺産業株式会社
 本社 花巻市東十二丁目19-10-6
 本電話 0198-22-4119
 代表者 川辺 助之
 創業者 昭和49年5月
 従業員 30名
 創業種 精密機械金型設計製作、プレス加工
 URL <http://www.kawabesangyo.co.jp/>

川辺産業株式会社
【支援企業紹介】花巻市



平成25年度 いわてものづくりアカデミーのご案内

いわて産業振興センターでは県内中小企業の人材を育成するため、企業の管理者・後継者・製造現場スタッフ等を対象に、意識改革や経営手法に関するセミナーを開催します。ご参加をお待ちしています。

中堅管理者・後継者養成講座

企業が繁栄・存続していくためには、将来にトップを支えることとなる中堅管理者と後継者の養成が不可欠の条件となります。

この講座では、管理者・後継者に要求されるテーマを「経営理念・戦略」「計数の理解」「リーダーシップ」の3つに絞って指導します。

テーマ	中堅管理者の立場と役割、環境の変化と企業の対応、経営理念と経営戦略、会社で使う計数の基礎、リーダーシップ、部下指導
講師	(株)エム・イー・エル 石黒仁司、(株)MELソリューション 安田芳樹
日程	平成25年6月18・19日、7月17・18日、8月21・22日
会場	八幡平市・ホテル安比グランドほか
受講料	1名につき50,000円

品質管理中級セミナー

品質管理と品質保証は奥の深い世界であり、加工の難易度、材質の問題、精度等刻々変化するものづくり現場に対応して管理手法や検査手法も不断のレベルアップを図る必要があります。

本セミナーでは、最新の品質管理の進め方や、大手メーカーに対しても確実な品質保証ができるレベルの管理技法を指導します。

テーマ	品質管理の必要性・考え方、TQMの進め方、トラブル解決法・標準化、各種管理・検査手法他
講師	玉川大学経営学部 教授 大藤 正
日程	平成25年8月26・27・28日
会場	北上市・北上オフィスプラザ
受講料	1名につき15,000円

品質管理基礎講座

品質管理の徹底は、不良・クレームの減、ムダ作業の減、コスト減、生産性・信頼性・受注能力向上、体質改善等々、経営全般に著しい効果があり、取引先・社員・経営者の全ての利益に直結します。

本講座は、基礎的な品質管理を確実にできる人材の育成を目指します。

テーマ	挨拶と管理前のかんり、整理整頓と人間関係、品質管理とは、データの取り方他
講師	日本工場経営者協会 内山昭夫
日程	平成25年5月21・22日
会場	北上市・北上オフィスプラザ
受講料	1名につき10,000円

工程改善基礎講座

近年のものづくりでは、世界経済の影響を受ける中で、より一層ムダ・ムラ・ムリを排除した効率的生産が求められています。

本講座では、作業効率向上等に対応した工程改善のポイントについて伝授し、改善取組みへのきっかけづくりを行います。

テーマ	参加企業の現状分析と問題点のとらえ方、モデル作業の改善、改善を継続するポイント他
講師	(株)アドバンス経営 中田耕治
日程	平成25年6月27・28日
会場	北上市・北上市技術交流センター
受講料	1名につき10,000円

経営者・管理者のための原価低減セミナー

市場の変化による減産や、お客様(取引先様)からのコスト削減要請といった厳しい状況下において、利益を出すためには、まずは原価を深く理解する必要があります。

本セミナーでは、経営者・管理者を対象に、原価に対する理解を深めてもらうとともに、減産下でも利益を出すための原価低減の考え方について講義と演習で学んでいただきます。

テーマ	原価の仕組と決算書、ムダと原価の関係、原価管理の必要性、少ないデータで利益を確保する方法、優良企業の経営分析とベンチマーク演習
講師	経営コンサルタント 齋 巖
日程	平成25年9月11・12日
会場	北上市・北上オフィスプラザ
受講料	1名につき10,000円

管理者のための生産管理セミナー

企業が継続して利益を確保していくためには、お客様(取引先様)に満足してもらうことが、重要な条件となります。

本セミナーでは、お客様(取引先様)が満足するQCDを維持、提供していくために必要となる生産管理の考え方を講義と演習で学んでいただきます。

テーマ	生産管理とは、生産計画の流れ、生産統制とは、多品種少量生産の生産管理、生産管理とリードタイム、生産方法の違いについて演習による体験
講師	経営コンサルタント 齋 巖
日程	平成25年10月9・10日
会場	北上市・北上オフィスプラザ
受講料	1名につき10,000円

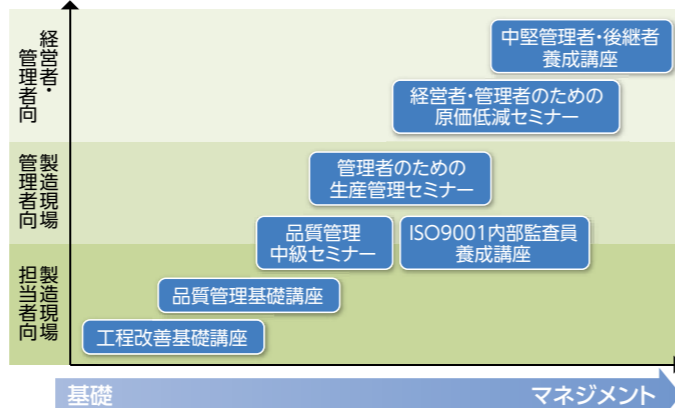
ISO9001内部監査員養成講座

ISO9001の取得・維持は、品質向上や競合他社との差別化はもとより、企業体質強化、企業イメージ向上等、経営戦略上の重要項目となっています。

本講座は、監査の実習等を含む実践的なカリキュラムで構成され内部監査員を目指す方には最適なコースです。

テーマ	システム概要と要求事項、内部監査と内部監査員、監査計画と内部監査の実施、是正処置要求書・監査報告書
講師	(株)高野テクノサービス 高野清治
日程	平成25年10月2・3日
会場	八幡平市・いこいの村岩手
受講料	1名につき12,000円

■いわてものづくりアカデミーの体系図



※宿泊料等はお問い合わせ下さい。 ※当センター賛助会員の方は2割引で受講できます。

申込・問合せ先 産業支援グループ TEL:019-631-3823 FAX:019-631-3830



「第47回スーパーマーケット・トレードショー2013」に、

沿岸被災地域の19社を含む 県内企業40社が岩手県ブースに 統一出展いたしました

東日本大震災津波から2年が経過しました。被災事業者は、工場建屋・設備を復旧し、少しずつではありますが事業を再開しています。

しかしながら、震災により生産活動が一時的に停止したため、取引先や販路を失った事業者も多く、また、原発事故に伴う風評被害等の影響も懸念され、復旧・復興に取組む事業者の置かれる環境は厳しい状況となっているなか、首都圏で開催される大規模展示会に出展し、復活した商品や復旧・復興に取組む事業者の姿などを情報発信し、安全・安心な商品と岩手の食の魅力を、全国のバイヤーに力強く発信しました。

3日間の来場者も84,954名を数え、岩手県ブース全体としても、大きな手応えを感じるものとなりました。当センターでは来年度以降も出展できるよう調整を進めていきます。



北東北3県域アパレル企業 ビジネスマッチングフォーラムを開催しました

2月19日、二戸市「二戸パークホテル」にて、北東北3県のアパレル関連のものづくり企業の交流促進と、首都圏等発注企業との取引の活性化を図る催し「北東北3県域アパレル企業ビジネスマッチングフォーラム」を開催しました(主催:岩手県北広域振興局、(財)いわて産業振興センター)。

本フォーラムは、国内の縫製工場が減少している中、「メイド・イン・ジャパン」にこだわった製品づくりを志向する首都圏等の発注企業に対し、質の高いものづくりを提供する北東北3県のアパレル企業をアピールすることと、3県企業間の連携・情報交流を目的としたもので、今年で3回目の開催となります。

当日は、北東北3県の縫製企業33社(岩手県22、青森県7、秋田県4)と、首都圏等の発注企業20社、ならびに関係者が出席しました。

はじめに3県企業・発注企業各社による自社紹介を行い、各社の特徴をアピールしてもらいました。その後、3県企業と発注企業が個別に面談を行いました。この中では、情報交換をはじめ、具体的な案件について、商談されたところもありました。

会場内では3県企業のサンプル等を展示するコーナーも設置し、発注企業へ自社技術をアピールする場として、また3県企業同士でもお互いの技術について情報交換する場として活用されました。

個別面談の後の懇親会の部においても、面談できなかった企業と名刺交換をしたり、活発に他社との交流が行われていました。

このフォーラムを機会に、北東北3県の縫製企業の活動がより活性化されることを期待しています。

第16回 いわて希望ファンド

第13回 いわて農商工連携ファンド

公募中です 4/8(月)まで

利用を検討される方は、お気軽にご相談ください

いわて希望ファンド 地域活性化支援事業

県内中小企業等の革新的・個性的な取り組みにより、地域経済の活性化を図るため、創業、経営革新、中心市街地活性化に向けた取組などについて、助成金交付による総合的な支援を行います。

起業・新事業活動支援事業

創業・企業や経営の革新に資する中小企業等の以下の取り組みを支援

- 市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 創業する者 ● 中小企業者(法人または個人事業者) ● 特定非営利活動法人、農事組合法人等(地域資源活用枠のみ) 		
(1) 地域資源活用枠	(2) 起業・経営革新枠		
「地域資源」(農林水産物、鉱工業品またはその生産技術、文化財等の観光資源など)を活用する事業	創業者(創業・起業から3年以内)が取り組む事業または経営革新計画の承認を受けた事業		
助成率 助成限度額	1/2以内 200万円 (沿岸・東北広域振興局管内は2/3以内)	助成率 助成限度額	1/2以内 500万円
助成期間	1年間 (※継続3年以内 (毎年審査))	助成期間	1年間 (※継続3年以内 (毎年審査))

中心市街地活性化支援事業

中心市街地や商店街の活性化に向けての革新的な以下の取り組みを支援

- 市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項各号に掲げる者 ● 小売・サービス業を営む、県内に住所のある中小企業者(法人または個人事業者) ● 商工会、商工会議所、商店街振興組合、事業協同組合 ● 知事が適当と認める特定非営利活動法人
助成率 助成限度額	9/10以内 200万円
助成期間	1年間(※継続3年以内(毎年審査))

支援機関による支援事業

中小企業者が実施する起業・経営革新等を支援する事業を行う支援機関の取り組み支援

第15回いわて希望ファンド地域活性化支援事業採択一覧

第15回いわて希望ファンド地域活性化支援事業について、平成25年1月16日開催された外部委員による審査委員会において、下記の事業が採択されました。

区分	企業・組合名	所在地	事業内容
地域資源	三陸鉄道(株)	宮古市	「鉄道ダンシ」による地域活性化とプラットフォームビジネスの展開
	(株)ドリームラボ	盛岡市	岩手県産にこだわった「野菜のおいしさ」を伝える食品の開発
	喫茶イーハトーブ	盛岡市	三陸鉄道の風景を立体的に見せるチョコレートの開発
	ゴウちゃんのコロック屋	盛岡市	ゴウちゃんのコロック屋発!! 岩手の食を全国へ
	合同会社東北発酵研究所	二戸市	米ぬか・かき殻などを活用した天然素材100%の有機肥料の開発
	岩手県菓子工業組合	盛岡市	「頑張れ岩手! 県産の食材を活用した“ご当地スイーツ”の開発と全国に向けた発信事業
経営革新	(有)日三エンジニアリング	北上市	移動式精密レーザー溶接システムの開発
支援機関	(地独)岩手県工業技術センター	盛岡市	食品産業商品力向上支援並びに販路開拓支援事業の実施

いわて農商工連携ファンド 地域活性化支援事業

本県の地域経済の重要な担い手である農林水産業と中小企業者との連携(農商工連携)を強化し、相乗効果を発揮していくことで地域経済の活性化を図るため、中小企業者と農林漁業者の連携体が行う創業や新たな事業展開等への支援を行います。

起業・新事業活動支援事業

創業者または経営の革新を行う中小企業者と農林漁業者の連携体による、以下の取り組みを支援

- 市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の中小企業者と農林漁業者の連携体 → 農林漁業者とは、農業、林業、漁業を行う者及びこれらの組織する団体(農協、森林組合、漁業、連合会も可) ● 中小企業者以外で、県内の特定非営利活動法人等と農林漁業者の連携体 注)申請は、中小企業者と農林漁業者の連名で行い、どちらか一方を代表者と定め、センターとの連絡・助成金の受領等を行う
助成率 助成限度額	2/3以内 500万円 (農商工等連携事業計画の認定を受けている場合は3/4以内)
助成期間	1年間(※継続3年以内(毎年審査))

支援機関による支援事業

農商工連携による起業・新事業活動等を支援する事業を行う支援機関の取り組み支援

●農商工連携の基本的要件


- 1 有機的連携**
中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、それぞれの経営資源を有効に活用すること
 - ◆「有機的連携」とは、通常の事業範囲を超えて両者が連携することを指します。
 - ◆「経営資源を有効に活用」とは、両者の有する設備、技術、個人の有する知識及び技能その他ビジネスノウハウ、知的財産等が、本事業を実施するために具体的、かつ有効に用いられていることを指します。
- 2 新商品の開発等**
事業により、新商品若しくは新役務の開発、生産または需要の開拓が実現すること
 - ◆「新商品若しくは新役務(サービス)」とは、事業実施主体にとって、これまでに開発、生産したことのない新たな商品または役務であることが必要です。

●農商工連携の事例～エゴマ調味料の事例～

中小企業者(調味料メーカー)
大豆・小麦アレルギーが発生しない新たなエゴマ利用調味料の施策や岩手県産の食材と組み合わせたレシピ開発等を進め、販路開拓を図る。

農林漁業者(農業者)
エゴマは、健康食品として注目を集めている。農業や化学肥料を使わない生産を進め、研修会や産地の情報発信を行う。

連携
それぞれが工夫を凝らした取り組み!

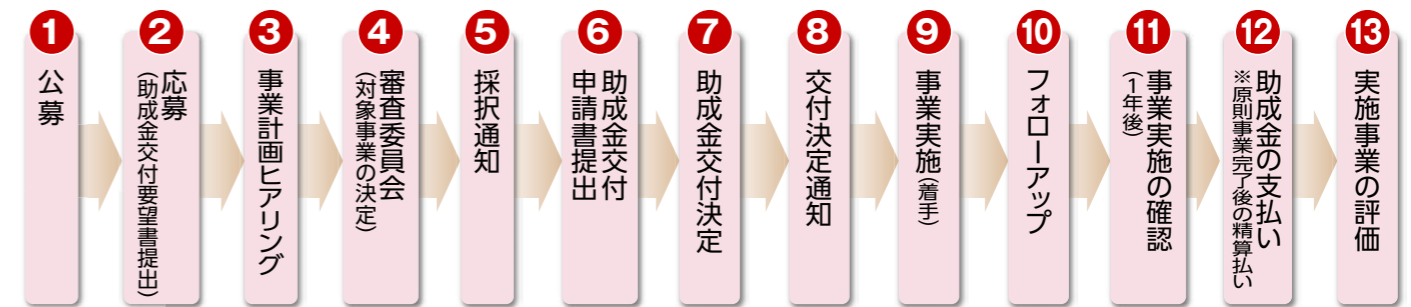
新商品開発!


第12回いわて農商工連携ファンド地域活性化支援事業採択一覧

第12回いわて農商工連携ファンド地域活性化支援事業について、平成25年1月16日開催された外部委員による審査委員会において、下記の事業が採択されました。

区分	企業・組合名	所在地	事業内容
起業・新事業	(株)南部美人 (連携者:新岩手農業協同組合)	二戸市 (滝沢村)	岩手県産果実を使った糖類無添加リキュールの開発と販路開拓
	(有)秀吉 (連携者:マルテン水産)	盛岡市 (陸前高田市)	「おらほの」海産物・農産物のオーナー制によるいわての食材の販路開拓(継続2年目)
	きのこのSATO(株) (連携者:(株)ネクス)	陸前高田市 (花巻市)	ITを活用した「栽培管理システム」のモデル構築を加えた高品質きのこ栽培と販路開拓

●手続きの流れ



お問い合わせお申し込みはこちら **産業支援グループ**

(いわて希望ファンド担当/岸敦 いわて農商工連携ファンド担当/伊藤利光)
TEL019-631-3824 FAX019-631-3830 メール johoh@johoh-iwate.or.jp

第40回
記念

岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)

開催
しました

平成25年2月14日(木)～2月19日(火)の6日間、愛知県名古屋市・丸栄を会場として、第40回記念・岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)を開催しました。

東日本大震災から約2年経ち、沿岸部の復興はまだ道半ばですが、数多くの愛知県の方々に、復興のお手伝いをいただいています。名古屋市で開催する物産展も節目となる40回を迎え、県内58事業者の元気な姿を発信し、岩手県の誇る個性豊かな食品や温もりを伝える工芸品の数々を販売しました。

観光コーナーでは、復興支援パネルを展示し、岩手の復興の絆を伝えただけ、平泉を中心とした県内の観光地を、パスガイドさんとともに紹介しました。

会場では、「世界遺産平泉 復興応援^{いの}祈り鶴プロジェクト」を展開し、沢山の名古屋の皆様様に「祈り鶴」に

参加していただきました。陸前高田市マスコットキャラクターの「たかたのゆめちゃん」は、岩手県と陸前高田市のPRを行い、子供たちや女性に大人気でした。

売上も、49,220千円(前年比97.0%)を売り上げることができ、盛況のうちに終了しました。



第42回岩手県の物産と観光展 (日本橋高島屋展) 開催のお知らせ

42回目を迎えます今年の岩手県の物産と観光展(日本橋高島屋展)は、久慈市を舞台とするNHK連続テレビ小説「あまちゃん」が4月から放映されることに合わせ、久慈地域の特産品の数々と北三陸の観光をPRするほか、沿岸地域で被災した事業者の商品を重点的に取り上げ、関東の皆様にも県内事業者の元気な姿を発信して岩手の復興もPRすることとしています。岩手県内の美味しいもの、優れた工芸品を一堂に取り揃えております。東京においでの皆様のご来場をこころよりお待ちしております。

開催日時

会期 平成25年3月20日(水)～25日(月)の6日間

時間 10:00～20:00(25日最終日は18:00終了)

場所 ㈱高島屋東京店 8階催会場及びギャラリー
(住所:東京都中央区日本橋2-4-1)

申込・問い合わせ先 いわたの物産展等実行委員会 事務局 ☎019-631-3824



住所変更のお知らせ

盛岡南新都市土地区画整理事業の進展に伴い、当センターが所在する地域で住居表示が実施され、2月18日より右のとおり住所、郵便番号が変更されました。実際の所在地は変わらず、また電話番号等も変更ありません。

当面は旧住所でも郵便物等は届きますが、住所録等の更新をお願いいたします。お手数をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

旧住所

〒020-0852
岩手県盛岡市飯岡新田3-35-2

新住所

〒020-0857
岩手県盛岡市北飯岡2丁目4-26

※隣接の岩手県工業技術センターは「北飯岡2丁目4-25」です。

(財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報いわて

2013年3月10日(毎月10日発行)

■発行/(財)いわて産業振興センター

〒020-0857 盛岡市北飯岡2丁目4-26(岩手県先端科学技術研究センター2F)

TEL.019(631)3823

E-mail joho@joho-iwate.or.jp URL http://www.joho-iwate.or.jp/

■編集印刷/川嶋印刷株式会社



この冊子は地球に優しいベジタブルオイルインクを使用しています。